タイムス少年サッカー開幕

64チーム果敢にプレー

豊科南、筑摩野、鎌田8強に

64チームの頂点を目指し、激しく競り合う選手たち（アルフット安曇野―長野ガーフ）

第二十一回市民タイムス少年サッカー新人戦・カガミカップ（市民タイムス、松本市サッカースポーツ少年団連合会主催、カガミグループ協賛）が十二日、松本市の総合球技場・アルウィンで開幕した。松本市サッカー場など八会場でトーナメントの1―3回戦を行い、豊科南、筑摩野、鎌田の中信勢3チームのほか、茅野市玉川（茅野市）、トップストーン（上伊那郡宮田村）、屋代（千曲市）、NPIC（長野市）、諏訪FC（諏訪市）が8強入りを決めた。

中信地区を中心に、県内各地から64チーム、約千人の小学生が出場した。六年生が抜けて、五年生主体の新チームとなった直後の「新人戦」となる。試合に先立ち、アルウィンで開かれた開会式では、大会長の新保力市民タイムス社長が「大きな夢を持つことは、君たちに与えられた特権。新人戦らしく元気いっぱいにプレーしてほしい」とあいさつした。選手を代表してサッカースポーツ少年団筑摩イレブンの松木駿青主将が「フェアプレー精神にのっとり、正々堂々と戦う」と宣誓した。

各会場では、保護者からの「負けるな」「シュート」といった声援を受けて選手たちが果敢にボールを追いかけ、ゴールを目指した。ゴールが決まると、シュートした選手の周りに仲間たちが笑顔で駆け寄って抱き合っていた。

十九日に準々決勝、準決勝、決勝と三位決定戦、フレンドリーマッチがアルウィンと隣接の芝生グラウンドで行われる。フレンドリーマッチには準々決勝で敗れたチームが出場する。決勝は午後一時半にキックオフ。

関連記事21面に